

「第24回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会」報告

【開催日】平成25年7月26日（金）・27日（土）

【会場】亀の井ホテル別府店（別府市中央町5-17）

【参加者】135名（学生：107名，教員：21名，企業：7名）

【プログラム】

大会1日目午後

- ・ 特別企画「現場を知る ―地域産業を支える技・情熱との交流Ⅱ―」
4班に分かれ，下記工場の見学を行った。
 - (1)昭和電工（株）大分工場
住友化学（株）大分工場
 - (2)三和酒類（株）本社工場・メタン発酵設備
 - (3)新日鐵住金（株）大分製鐵所
 - (4)九州電力（株）新大分火力発電所（ガスタービンー蒸気タービン コンバインド発電システム）
- ・ 学生企画「大学間の垣根を越えた学生交流」
- ・ 懇親会

大会2日目午前

- ・ ポスター発表を2班に分けて行い，ポスター賞13名を選定した（発表数98件）
- ・ 総合討論

○参加者集合写真



○ポスター賞受賞者集合写真



○ポスター発表の様子



第 24 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 特別企画 報告書

現場を知る — 地域産業を支える技・情熱との交流 II —

第 24 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会実行委員長 岩本光生 (大分大)

第 24 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会学生幹事 小田 奨 (大分大)

化学工学会九州支部若手ケミカルエンジニア連絡会 (Q・NET)

H25 年度会長 西浜章平 (北九大)

概要・目的

化学工学会に所属している学生は、大多数が化学系企業へと就職し、プラント運転や設計などを中心とした業務に携わる。このため、「ものづくり」の現場を知ることは、極めて教育効果が高いと考えられる。このため昨年度北九州地区にて開催された第 23 回九州地区若手ケミカルエンジニアリング討論会では第 1 回目の「現場を知る - 地域産業を支える技・情熱との交流 -」を企画し、企画運営後のアンケートにおいては、同様の企画を継続的に行う方がよいとの見解が大多数を占めた。このため平成 25 年度の第 24 回若手の会においても同様の企画を行い、大分地区の化工系企業の見学を行った。

【日 時】平成 25 年 7 月 26 日 (金) 13:00 - 17:00

【参加人数】123 名 (学生: 103 名, 教員: 20 名)

○第 1 部: 現場を知る

4 班に分かれ、下記工場の見学と、現場や技術の紹介を頂いた (順不同)

昭和電工 (株) 大分工場	} 30 名
住友化学 (株) 大分工場	
三和酒類 (株) 本社工場・メタン発酵設備	35 名
新日鐵住金 (株) 大分製鐵所	30 名
九州電力 (株) 新大分火力発電所	28 名

○第 2 部: 懇親会 (19:00 ~ 20:30)

場所: 亀の井ホテル別府店 (別府市中央町 5-17)

若手技術者による企業紹介と学生・教員との交流 (企業参加者 7 名)

上記の企画を行った後に、参加した学生・教員および、ご参加頂いた企業の方にアンケートを記入頂いた。

「現場を知る ― 地域産業を支える技・情熱との交流Ⅱ ―」総評

昨年の化工若手北九州大会に引き続き、今年度の大分大会でも「現場を知る」ための特別企画を行った。大分地区は「ものづくり」が盛んな地域であり、まず工場見学で「現場」での物作りを体感し、各企業の持つ技術になどについて説明を頂いた。また懇親会にも企業の方に来て頂き、企業説明をして頂くと共に産学の若手の交流を行った。

特別企画では、学生幹事を中心としてバスの手配などに尽力頂き、123名人が約30人×4グループに分かれ、5つの企業（昭和電工（株）大分工場、住友化学（株）大分工場、三和酒類（株）本社工場、新日鐵住金（株）大分製鐵所、九州電力（株）新大分火力発電所）の見学を行った。事前に見学者名簿を提出する必要があったため、実行委員会で参加者の見学先を決めたが、学生アンケートでは「既に見学したことのある企業だった」、「他に行きたい企業があった」などの指摘もあったが、「将来の参考になった」、「実際の現場を見ることが出来て良かった」という意見が多く、概ね好評であった。

企業の方のアンケートでは「知識・理論を組み合わせる思考する能力」や「前向きの姿勢」などについてご指摘を頂いた。また「化学工学の恩恵を授かっている毎日であり、必須の学問と認識している」との心強いお言葉も頂いた。

本会は化学工学を主体とした学問に関係する企業の方や、大学教職員、学生により構成されており、学生にここで得た知識を活用し、社会で活躍して頂くため、自分の頭で考えて判断し、さらに実際の装置をイメージする能力を育み、また将来の就職について考える助けになることを今回の特別企画は目標としている。加えて学生・教員と企業との交流の機会としても有用と考えている。

最後になりましたが、お忙しい中、工場見学をお引き受け頂いた企業の方々に感謝申し上げます。